

■会議結果報告書■

会議の名称	第6回札幌市子ども・子育て会議若者支援施設在り方検討部会
日時・場所	令和7年6月2日（月）9：00 開会 大通バスセンタービル2号館2階 子ども未来局大会議室
出席委員 （5名/6名中）	永浦 拓（部会長）、荒木 奈美、岩崎 祥太、大澤 真平、工藤 真嗣（敬称略）
傍聴者数	3名

議事	概要等
議題1： 提言書（案）について	<p><事務局説明> 事務局より、提言書（案）について説明。</p> <p><主な意見、提案></p> <p>○ はじめに （委員） 若者の現状について、「ひきこもりやニートなど困難を抱える若者への支援」あるいは「インターネットやSNSの普及、価値観や選択肢の多様化など、若者を取り巻く環境は大きく変化してきました」と書いている。 後に、「3 今後の若者支援施設に望まれる方向性」の中で、区の保健福祉部門との連携強化が必要だという話が出てくるわけだが、そうすると、連携強化を必要とする背景などをここへ書く必要があると思う。 例えば、虐待の問題や経済的な困窮の問題など、若者が福祉的な支援を必要としているような社会の状況を、もう一言書き加えてもよい。</p> <p>1 若者支援施設の設置経緯 特段の意見なし</p> <p>2 若者支援施設の現況 （委員） 若者支援施設には、Youthプラス（ユースプラス）という愛称もあるため、ロゴなどの記載があってもよい。</p> <p>（委員） さっぽろ青少年女性活動協会では、ユースワーカーをどういうふうに位置づけているのか、もし職位があるとすれば、これを定義したほうがよい。</p> <p>（委員） 若者支援施設では、ユースワーカーが専門的な知識を身につけて、困りを抱える若者を必要な支援に繋げられるよう、日々議論を重ねながら取り組んでいると聞いている。</p>

(委員)

(3)に「学齢期から青年期へ移行する際に」と書かれているが、学齢期とはいつまでなのか、学齢期というものが何を意味しているのか、具体的な記載が必要である。

3 今後の若者支援施設に望まれる方向性

(1) 自立支援機能の拡充

(委員)

3に書いていることは、簡単でもいいので、あらかじめ2(2)のア、イ、ウのいずれかに記載しておく必要がある。あるいは、この支援者・利用者ヒアリングでの詳細については、ここでまとめないが、関連する部分を3の方向性で紹介すると記載したほうがよい。

(委員)

14ページの下から二つ目の丸の現在、自立支援事業というところで、今後は、より身近な地域で支援を受けられるように拡大したほうがよいという提言だが、その理由として、交通費の継続的な捻出といった問題に限った内容だけでは弱い。

身近な地域で支援を受けられるということは、お金の問題だけではなくて、やはり生まれ育ったところでしっかりと関係をつくれるなど、何かもう少し積極的な理由があると思うので、それを付け加えたほうがよい。

(2) ロビー機能の強化

特段の意見なし

(3) 交流・活動支援機能を支えるための貸室機能の確保

特段の意見なし

(4) 学齢期からの支援の継続強化

(委員)

「イ 具体的な接続の強化策」について、施設の活動内容を周知すべき関係機関の中に、児童会館があってもよい。実際、児童会館は、放課後に積極的に中高生が遊びに来ていたり、大きい児童会館では、若者支援施設と同じようなにぎわいを生み出すような仕組みがある。

○ 終わりに

(委員)

「はじめに」が平仮名で、「終わりに」が漢字となっているため、統一する必要がある。

(委員)

ユーザーとなる若者が、若者支援施設を利用して、活用して、どういうふうになってほしいのかという願いみたいなものも併せて書けるとよい。

<p>議題 2 : 今後の提言書の構成作業について</p>	<p>(事務局)</p> <p>委員の意見を踏まえた今後の提言書の校正作業については、改めて部会を開催することなく、事務局と永浦部会長の一任により、提言書を完成させたいと考えている。</p> <p>(「異議なし」と認め議題 2 は事務局の提案のとおり可決)</p>
-----------------------------------	--